



TITLE:

# 租税賦課機關の問題

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. 租税賦課機關の問題. 經濟論叢 1932, 34(6): 843-860

ISSUE DATE:

1932-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130193>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

# 經濟論叢

號 六 第

卷四十三第

行發日一月六年七和昭

## 論 叢

租稅賦課機關の問題……………法學博士 神戸 正雄

利子に關する試論……………文學博士 高田 保馬

國民所得の分配の型を論ず……………經濟學博士 汐見 三郎

魚食論……………法學博士 財部 靜治

## 時 論

思想對策批判……………經濟學博士 石川 興二

## 研 究

集團に就いて……………經濟學士 蜷川 虎三

支那國民經濟序說……………經濟學士 大上 末廣

## 說 苑

外米關稅の外米市價に及ぼす影響……………經濟學士 八木芳之助

松江藩の人蔘專賣と維新後の處分……………經濟學士 堀江 保藏

婚姻率の自律性に就いて……………經濟學士 三谷 道麿

## 附 錄

新着外國經濟雜誌主要論題

本誌第三十四卷總目錄

# 經濟論叢

第三十四卷 第六號 (通卷第貳百四號)

昭和七年六月發行

論

叢

## 租稅賦課機關の問題

神 戸 正 雄

緒 言

租稅取立の爲めの行政事務には賦課といふことと、徴收といふことがある。其中に就きても徴收の事務は今日の時世に於ては、全く簡單なる仕事である。現金の收納は主として銀行が之に當り、郵便局をも使つて處理するので、行政當局としては、單に其の時々臨みて、徴稅令書を作成して、各の納稅義務者又は納稅管理人に配布するだけで事が済む。然るに其豫備行爲たる租稅の賦課は之と異つて頗る面倒である。課稅物件、標準及稅率の捕捉、計算、及確定をしなければ

ばならない。此が決してなまやさしい業ではない。勿論、其は税によりては公知の物を捕捉し、外形標準を見出すだけで足る場合があり、其の場合には賦課といふても極めて容易の事に過ぎない。併し往々にして課税物件が人々の經濟の内狀に立入つて初めて知れる物であつたり、課税標準が齊しく、經濟の内部に亘り随つて外部からは確知し難く、假令之を確知し得ても評價の多様となり得るやうなものがある。かかる場合、其の六つかしき賦課の仕事には、如何なるものが局に當るのが適當であるか。國税であるならば國家當局（官吏又は委員會）、地方税であつたらば地方當局と爲し、各税について其課税權の把持者が之に當るのだといへば、其れで良いやうである。又、其れが普通でもあるやうである。けれども實例に依ると、國税にても却つて地方當局者が之を賦課して居るものもあり、地方税を國家當局が賦課して居るものもあつて、近時はかかる例が多くならうとして居るのを見出す。又かかる賦課當局としての適否といふことを考慮して、税其ものを、適當なる場處に指定しやうといふことにもなる。此等の關係は從來、あまり人の注意を引かなかつた事ではあるが、其處には興味深きものが潜むと思ふので、敢て茲に之についての考察を試みやうと思ふ。

## 第一段 賦税機關としての地方當局の適否

租税賦課の機關として國家當局と、地方當局と孰れか適當なりやといふことが、茲に問題とな

るのである。其については、國家當局を中心として說いても良ければ、地方當局を出發點として說いても良い。が今私は後者に從つて之を説く。地方當局といへば地方吏員又は地方民選出員である。其が果して租税賦課の機關として適當なものであるか何うか。先づ其長所を示し、次いで短所に移らう。

(一) 其長所(隨つて國家當局の相對的短所)

(A) 公平課税上

(い) 當局者の智識に基くもの——即ち地方當局には、其地方々々の實情に精通して、其に最適切なる決定を爲し得るといふことがある。詳しくいふと、地方當局は大むね永く其々の地方に在住して、大局からしても其地方々々に於ける特殊の事情に良く通じて居るばかりでなく、各箇人の内情にも通じて居ることが少くない。然るに國家當局であると兎角、異動が頻繁であつて、或地方に於ける在住が短き期間に止まり、其地方に於ける各箇人の内情は良く判らず、其の一般的なる特殊性さへも判らぬといふことがある。少くとも相對的には二者の間に、此のやうな相違が存する。それで國家當局だと表面的又は片面的の觀察に陥る嫌があるのに對して、地方の當局だと、其に比しては一層實際に適切なる判斷の爲され得るといふことがある。或は特に各人の財産狀況につきては地方當局が一番良く知るといひ、其點に若干の眞理があるけれども、併し又さうだとは必ずしも言ひ切れないものもあるやうだから、其點は暫らく措くとしても、大體に於て

- 1) Dawson, Municipal life and government in Germany. p. 365.
- 2) 拙著、租税研究三卷, 298. Jèze, Cours élémentaire de science des finances (1931). p. 417. Bela Földes, Fw. 2, Aufl. S. 388.
- 3) Shultz, American public finance and taxation. p. 364.

は右の如きことが言ひ得るのであり、特に地方の發達が未だ幼稚であり、事情の單純なるだけに、國家當局の手によりてもよく真相を掴み得るけれども、段々と進歩して、事情が複雑となるに隨ひ、そして其の變化しつつある各地の事情に適應するといふ事は國家當局には不適當のやうである<sup>4)</sup>。特に獨逸にありては、概して市町村當局には有能の人士が局に當つて居るといふこともあり、其施爲には新事情への適應性を備へて居るともいはれるほどなので、一層にも地方當局が地方事情に適切なる判斷を爲し得といはれる。此の如き獨逸の特別事情を別とし、他の國について見ても矢張り、或度までは地方當局の適實性が存在し、其れだけに於て此ものが一層、課税の公平に適うといふを得るのである。

(ろ)當局者の徳性に基くもの——前記當局者の智能に關するものの外、其の徳性に關するものがある。即ち地方當局者は常に人民に密接して交渉し、人民の選舉の影響をも受けるので、人民の爲めに計り、人民に對して寛大に處理することとなり得るのに反し、國家當局となると、自然官廳の奥に隠れて官僚的となり、專制的、壓制的となつて、人民を壓迫する嫌がある。此點からして國家當局の處置には或不公平の生ずる可能性があつて、其は地方當局には之なきを得る。北米合衆國にて永い間、人々が租税賦課について地方當局を選び、國家當局を遠ざけたのは、此理由があるが爲めだといふことである<sup>7)</sup>。勿論、官僚的壓制の不公平に對しては、平民的寛大からしての別な意味の不公平が存し得る。けれども齊しく不公平としても後者は前者に比しては一層忍び

4) Lohmann, Die besonderen direkten Gemeindesteuern. S. 2.

5) Lotz, Fw. 2 Aufl. S. 574.

6) Dawson, l. c. p. 32.

7) Shultz, l. c. p. 364.

得るものだともいふことが出来る。

(B) 財政上

(い) 國及地方財政を通じて之を見るのに——地方當局の當る方が國家當局の場合よりも一層費用少くして賦課し得るといふ大な利益が存する。勿論、高級職業吏員を雇入るるとしては、國家にては位階勳等其他の名譽あるによりて一層安き俸給にて雇入るるを得るといふことはあるが、之に對して地方にては献身的奉仕的に無俸給にて働く諸多の名譽職員を得ることが出来るといふこともあるし、稅務に於ては高級者を多く要せず、主としては低級の實務員にて足り、かかる者にては位階勳等はきかず、隨つて地方は國家よりも一層高く拂ふの要少く、全體上、地方は一層少い費用にて同一の事績を舉げ得ることになるのである。

(ろ) 特に地方財政の立場から——特に地方の爲めの稅を、地方特別稅として地方當局の手にて取る場合の方が、國稅附加稅として國家の手にて取られたものに附加した場合又は國家の稅收入の一定部を交付された場合よりも、一層、經費の決定及支出につき責任を強く感ずることになつて、經費を切り詰め、節約に努めるといふことになる。附加稅の場合又は交付稅の場合には、地方の立場からして、取り易きの故に又は、眞に必要なよりもより多くのものが自ら入り來ることあるの故に、つひ濫費に流れるといふ恐がある。又別の見地よりして或稅が全く地方の特別稅となれば、地方としては其財源を確保し得て、財政上安心であるけれども、其が國家の手にて管

理せられ、唯だ其收入の一部を地方に交付するに止まることになれば、其交付部が次第々々に減縮されて往くやうになるといふ危険もある。<sup>9)</sup>此等の見地からして、地方税として名實とも地方當局の手にあることは、地方財政上、有利である。

(C) 政治上——にも、地方自治が箇人の自由乃至自助と相待ちて尊むべきものだと前提して、租税の賦課が地方當局の手により行はれることが此地方自治を助成する所以である。之によりて地方人民の責任自覺を大ならしめ、政治教育の上からしても望ましい。<sup>10)</sup>之に反し夫の事務を地方から奪つて、國家當局をして行はしむるときに、其は地方自治を制限し、地方自治に反することにもなる。<sup>11)</sup>行政の本體さへ地方團體の手に多く委ねられるならば、地方税賦課事務の如きは、末の事で、何うでも良いやうでもあるけれども、其の地方税務にまで國家が干渉し又は干與することが多きときには、其が地方行政への國家干渉の第一歩となり、<sup>12)</sup>國家干渉を増長するやうになる。地方自治を大事とする限り望ましからぬことである。勿論、地方自治には反對論據もあつて全然良きものとはいへぬであらう。併し其には相當に良い所があり、今日の文明國にては全體上、維持して往かるべきものとせられる。然らば此に何んな長所があるかといふと、第一には、市町村自治體なるものが、本來、各人の最近き處に於ける人の自然的なる社會單位であつて、<sup>13)</sup>人は先づ之を本として政治を行ふのが最自然であり、人が國家といふ大な團體に直接に結合するのはむしろ人工的のものである。夫の最自然的の結合は出来るだけ保存し助成し完成するのが、人の社會

9) Hutchinson, State-administered locally-shared taxes. p. 132.

10) Bastable, Public finance. 3 ed. p. 393. 407.

11) Bela Földes, a. a. O. S. 534.

12) Hutchinson, l. c. p. 21, 132.

13) Hutchinson, l. c. p. 22.



を、そして多少人工的な國家をも圓滿に發展せしめる所以である。其自然的のものは一層良く存續せしめて人の社會團結の土臺たらしむべきもので、其點からしても地方自治を尊重すべきものとする。第二に、此地方自治體が單に自然的のものであるのみでなく、此あるによりて人が民衆政治的に訓練せしめられる。<sup>14)</sup>即ち此が政治教育の手段又は機關としての效用を有つ。第三には、若も地方自治を認めず、國家に依る政治のみが行はれ、其に各地方からの代表者が參加するとすれば、一國全體の綜合利益が期せられて、最も理想的に政治が行はるるやうにも見ゆるが、政治上の凡べての問題を全體上のみから、特に各地方代表によりて之を見るの結果は、代表者の數に於て恐らくは一層多數なる農村の議員が都市の議員を壓倒して、動もすれば農村のみに有利なる政治となること<sup>15)</sup>の不都合が生ずる。かくて都會の不利となるが、せめて地方的なる政治問題なりとも、地方限りにて、即ち都市は都市にて其地方的の立場から自ら處理するを得しむるのが望ましいといふことになる。

(D) 經濟上——地方當局が賦税の局に當り、そして根本的にも地方自治が益々廣く行はるるならば、各地方の當局は競ふて其地方々々の經濟の發達に意を用ゐ、税制を定めるときにも、之を運用するについても、其々の地方の重要産業を有利ならしめ發展を速かならしめることになる。國家當局は大局には目は着くが、地方的の細かいことには目が届かぬ。各地方々々にて懸命に努力する方が其地方經濟の立場から一層有利なるは勿論、國の全體から見ても其方が一層全き國の經濟

14) Hutchinson, l. c. p. 23.

15) Hutchinson, l. c. p. 23.

を進めるといふことにもなり得る。尤も、終のものは必ず然りとのみいへないものはあるにして  
も。

(E) 社會及其他諸政策上——かくの如くにして地方當局が賦税に當るの結果は、各地方其々の事情に適切なる注意を拂ふことになつて、其爲め、右の經濟上の要求のみならず、各地の實際に即した社會上の要求にも、其他のものにも應ずることが出來て、國家當局の當るよりも一層、地方民の要望に副ふことが出來、諸の政策に適合するといふことが出来る。

## (二) 其短所(國家當局の長所)

(A) 技術上隨ふて公平課税上——前に舉げたのは地方當局が賦税に當るとしての利益であるが、反面には此に幾多の缺點が伴ふ。此を見落してはならぬ。動もすれば地方自治に憧憬するの餘り、其の良き方面のみを高調して、此弱點を見て見ぬ振りをすることがある。其は宜しくない。公平冷靜に之が長短兩面を摘發しなければならない。其第一は課税技術上のものである。即ち課税物件の性質によりては、國家當局にして初めて完全に又は其に近く捕捉し得て、地方當局の手によりては到底出來ぬといふものがある。例之、所得税<sup>16)</sup>、法人税<sup>17)</sup>、財産税<sup>18)</sup>、相續税<sup>19)</sup>、鐵道税<sup>20)</sup>などにありては、或箇人又は法人に屬する所得、財産、又は物體が一地方限りでなく全國に及び、更に其以上にも及ぶことがあり、少くとも他地方に亘りて存在し、又時として容易に他地方に移動し得られるので、地方の手にては到底完全に之を擱むことは出來ず、國にして初めて比較的により良

16) Bela Földes, a. a. O. S. 541.

17) 租税研究, 三卷 300. Shultz, l. c. p. 364. Bastable, l. c. p. 392, 395. Terhalle, Fw. S. 552. Lohmann, a. a. O. S. 6.

18) Shultz, l. c. p. 364. Hutchinson, l. c. p. 17. 20.

19) Shultz, l. c. p. 364. Bastable, l. c. p. 396. Hutchinson, l. c. p. 20. Terhalle, a. a. O. S. 552.

く擱み得る。箇人の財産の如きは地方の方が良く知るといふ元素もあるけれども、今日のやうに財産が他地方に亘ることの多き時世になると、地方にては判らぬ點の少からぬことを見出さなければならぬ。かくて此等のものでは國によりて賦税が行はれるときに一層公平に合するを得る。印紙税のやうな交通税の代表的のものも、物體には一地方限りでなくして他地方に交渉するものが少くないから、此も國の手にて取る方が一層公平に往く。通常の消費税<sup>22)</sup>また然りで、其物の消費が全國的であるときに、國の手にて取るのが自然的で、地方で取りては無理が行はれる。關稅<sup>23)</sup>の如きも國の賦課に適することはいふまでもなく、入市税だけは地方の手にて取られるけれども、其れ自身の存在理由の乏しきものだから、多くいふに及ばぬ。物税は大體、地方税たり地方當局の賦課するに適するものとせられるが、其中、土地家屋の税には此が當るけれども、既に營業の課税<sup>24)</sup>になると、營業が往々にして他地方に亘り、地方的に分別し難く、其れだけにては地方が賦課するのに困難なるものが横はる。使用税、不動産交通税は大體、地方にて容易に賦課し得るものとするが、たゞ特に車と舟との税は、物體は外見的で何人の手にても容易に擱めるけれども、其が可動であつて、他地方へ容易に移し得るので、地方賦課にては合法的脱税が行はれ易く、むしろ國の手により統一的に行ふを選むべしとする。で税の中には技術上、國家當局に待つものが、少くなく、國家の手によりて一層公平たり得るものが少くないのである。

## (B) 公平課税上

20) Shultz, l. c. p. 364.

21) Hutchinson, l. c. p. 21.

22) Bastable, l. c. p. 392, 395. Terhalle, a.a. O. S. 551.

23) Bela Földes, a. a. O. S. 535. Bastable, l. c. p. 394.

24) 租税研究, 九卷, 242. 以下.

25) Buck, Municipal finance. p. 449-500.

(い) 物體の性質上又は課税技術上——地方當局にては不公平となり、國家當局に依る方が一層公平たり得るものの存することは上記の通りとして更に、

(ろ) 當局の人の性質上——から生ずる地方當局に依る不公平といふことがある。其には更らに二つある。先づ以て、

(1) 徳性に基くもの——を擧げることが出来る。國家官吏又は其他の當局となると、自ら高處に居つて國家全體を見渡すの態度を把り、一地方一局部に拘泥せず、各箇人的の接觸も少く又は薄く、随つて其に偏傾することもなく、公平なる立場に立つて處理するといふ傾がある。特に彼には一層嚴重なる官吏服務規律に従つて、<sup>26)</sup>處理するといふこともあつて之を助ける。處が地方當局であると、先づ其地方本位に考へて、他の地方に對して、己の地方を特に有利にしやうといふ考に傾くのみならず、人々間についても、あまりに其地方の人を良く知る處から、自ら其の何れかの人に偏傾することになり易く、又、選舉者に媚びるといふ心理も働いて可なり不公平を行ふといふことになり易い。<sup>30)</sup>特に黨派心、階級利益爭鬭、近隣者反目などが、小い地域に却つて深刻に行はれるといふこともあつて、其の現はれる限り一層に夫の勢を助くる。

(2) 智識に基くもの——右徳性上の相違の外、智識上の相違が兩當局者間に存する。智識及教養は大體、地方當局に於て一層淺く且つ低き所であり、<sup>31)</sup>此點からいふても國家當局の方が地方當局よりも調査の信賴し得べき可能性が大であり、其上にも前記徳性上の優位もあるから、假令、

26) Hutchinson, l. c. p. 20.

27) Shultz, l. c. p. 365.

28) Bela Földes, a. a. O. S. 388.

29) Schultz, l. c. p. 365.

30) 租税研究三卷 298. Bastable, l. c. p. 392-393.

31) Shultz, l. c. p. 365. Bastable, l. c. p. 393.

前に擧げた地方當局の長所と差引して見なければ其眞價は判定出來ぬとしても、國家當局の此點に於ける長所にも可なり貴きものの存することは見逃がすべからずである。尤も智識といふても、國家當局の智識は學問的の其に於て勝り、地方當局の方は實際上の其れに於てまさるので、何れにも尊重すべきものがあり、優劣の斷じ難きことを附記すべきである。

(C) 財政上——には賦稅上の費用が、地方當局によりて國家當局に依るよりも一層少き傾あることは前に述べたやうであるが、併し此事は必ずしも常に然りといひ難きものがあり、往々にしては地方行政には國家行政に比して監督取締が行届かず、當局者と監督地位にある議員とが相結託して濫費を事とするといふことがある。我邦の實例を見ても、國家であつたらばしないやうな濫費が地方に可なり多く行はれて居るやうに思はれる。此は我邦にて一般に地方自治の未熟なるが爲めであり、將來其完成の曉には見出されぬことともなるではあらうが、少くとも現實に即していふと、往々かかる場合ありとは注意しなければならぬ。

(D) 政治上——には、地方自治が大事であり、隨つて其の廣く行はるるやうになる爲めには地方當局が賦稅に當るを望ましとすとは前にいふ所の如くであるが、此地方自治には長所はあれども併し別に短所も少からずして、必ずしも之を理想とのみ見ることは出來ず、むしろ國家集中、國家統一の選むべき點もある。其は何かといふと、第一には、地方自治なるものが假令、理想として最上のものだとしても、此が何れの時、何れの處にも良く行はれると限らず、往々にして、其

人民の自治能力の缺乏の爲めに、満足には行はれぬといふことがある。<sup>32)</sup> 其の良く行はれるのには條件を要し、其の整ふといふことは可なり六つかしい。其の備はらぬときにはむしろ官治をすめることにもなるが、併し一定時に一定の國の中にも、或地方には此條件が整ひ、他の地方には此が整はぬといふことがあつて、全國を一樣に地方自治が適するとも、適しないともいひ兼ね、随つて之を一國制度として考ふるときには之を採用すべしとも、すべからずとも爲し難く、大に措置に迷はなければぬといふことがある。第二には、前記のもの的一面でもあるが、地方自治行政に對しては國の行政に比して監督が比較的不行届でもあるが爲め、腐敗政治となるの可能性が、國の行政よりも一層大いといふことが<sup>34)</sup>ある。國の行政とても同じやうなことはある。けれども之に對する監視者の目も多く、<sup>35)</sup>かかる弊は少く且つ輕くて済む。第三には、地方自治にありては、當局者が地方的立場のみを眼中に置いて處理し、國家全體の立場を無視するといふ恐がある。第四には、地方自治として地方的事務として地方に委かされる仕事が少くないけれども、此が果して眞に地方的の事務か何うか。むしろ國家的事務として國の手にて、行ふた方が良くはないか疑あるものが少くなく、而かも大勢からいふと、從來地方的と見られた事務であつて、益々國家全體的色彩を増しつつあるものが多いやうである。元來、國家的事務、地方的事務の限界は、國によりて多少異つて居り、<sup>36)</sup>其は畢竟するに其國々の地理的事情や、政治的事情にかかり、更に歴史的にもかかるのである。特に經濟交通の發達に伴ひ、人、及、物の地方間の移動が自由

32) Hutchinson, l. c. p. 23.

33) Terhalle, a. a. O. S. 553.

34) Hutchinson, l. c. p. 24.

35) Hutchinson, l. c. p. 133.

36) Grice, National and local finance. p. 2.

となり頻繁となるに従ふては、此れまで地方的事務としたものでも可なりによくに國家的となり來りて、國家的と地方的との限界が付き悪くなる。例之、衛生事務の如きは、一地方に於ける其の等閑が忽ちにして他地方に悪影響を及ぼすのであつて、<sup>37)</sup>むしろ國家的の仕事である。社會事務また然りて、他地方から入り來つた者だからといふて、現に困つて居る者を見殺にする譯にも往かず、むしろ全國的に施爲すべきものが之につき益々多くなつて居る。義務教育事務は我國では通例、國家的のものと見る。其意味は精神的に教育其ものの性質から見るのであるが、併し經濟交通の進歩からしても、一地方にて、小學教育を受けたる者が終生、其地方に止まるとは限らず、可なりによく他地方に出てて其の爲めに働くやうになる點からも考へることが出來、此も一面には主として其地方の兒童の爲めといふ點にて地方的性質を飽迄も失はぬけれども、併し交通の頻繁と共に國家的性質を加へるといふことを見逃がし得ぬ。然るに全く一地方的のものとせらるる水道事業のやうなものにても、今日の時世にては往々にして其地方限りにて解決出來ず、他地方より、而かも極めて遠隔なる他の地方から水を引き來らなくてはならず、自ら此が他地方交渉の事業ともなるのである。<sup>38)</sup>道路事業の如きも全く各の地方限りのもののやうでもあるが、此とても、少くとも隣接の地方と歩調を同うし、聯絡を取らなくては其能率を發揮し難きのみでなく、此が國防に關係を有ち、一國政治の運用にも交渉を有つに於て、全國的に國家的に統制しなければならぬものもあつて、かかる見地は交通の發達と共に益々重さを加へつつある。第五には、特に課

37) Hutchinson, l. c. p. 24.

38) Hutchinson, l. c. p. 24.

税については各地方の自治に任かし、多少區々なる施爲を許すよりも、國家の手にて集中的に行ふた方が、一層、制度が簡單となり概觀し易くなるといふことがあり、<sup>39)</sup>其方が一層、税制に於ける缺點を見易くして其改良向上に資し得るといへる。今一つには、地方區々となり、又は少くとも各地方獨立にて課税するときに、自ら各地方の間に軋轢を生じ且つ重複課税をも生ずるやうになり、<sup>40)</sup>又は間々不課税ともなり得るが、國家の手にて統一的にやれば、かかる弊は少くして済む。尤も國家集中の場合にても、其にて得たる収入を各地方に一定部づつ分配交付するときには、若干、地方間の争といふことが残るけれども、其は前者に比してはいふに足らぬものである。

(E)經濟及其他の政策上——各地方當局が各其地方の立場から勝手に施爲し、其々の地方産業を保護するやうになれば、其地方の經濟發達には資するけれども、他の地方の發達を抑制し、地方經濟の不均衡なる發達を來たすといふことがある。又、或地方が特に負擔の輕易を計りて、住所や營業所の集中を促がし、他地方の衰微の犠牲に於て其地方の繁榮を生ずることもなり、随つて生じたる繁榮地方は益々諸の施設が整ひ、衰微地方は益々凡べてに於て不完備となり、國內の不平等ある發達を生ずることにもなる。國家當局の手にて平等に全國的に行へば、さういふことにはならずして済む。<sup>41)</sup>

以上いふ通りであるから、地方當局の局に當ることには利益もあるが、弊害もあり、そして國家當局のには利害の其と相反するものがあるから、むしろ其の何れか一方のみに偏重せず、二の

39) Bela Földes, a. a. O. S. 533.

40) Bela Földes, ebenda.

41) Hutchinson, l. c. p. 133.



ものを適當に併せ用ゆるのが大體勸められる。然らば之を何ういふ風に併せ用ゐるか。其方法如何。此は次ぎに之を説かう。

## 第二段 賦税機關としての地方當局の地位

地方當局と國家當局と、此の二のものは何ういふ風に之を賦税機關として利用すべきか。米國にては近頃は段々と國家集中傾向ありとせられ、<sup>42)</sup>國家管理地方分與税が増しつつあるのだが、獨逸にても此種のもの例を所得税に見出すことは私の嘗ても指摘した通りである。<sup>43)</sup>併し、さうかといふて、斯くの如くに國家當局にばかり偏するのが必ずしも良いこととはいへない。私は國家と地方と双方の長所を併せ利用する爲め、將來、兩當局混合委員の制度を立てるのが一番良いと思ふものであるが、試みに之についての其他色々の方法をも併せて列舉して見ると下の如くである。

(一) 何れか一方の當局をして當らしむる制度  
(A) 何れか一の團體の爲めの收入とするもの

(い) 收入歸屬各團體自身の當局をして當らしむるもの——此主義を貫かうとすれば、税の性質によりて國のみ課する税(附加税を許さず)と地方のみ課する税とを明かに區別することになる。現に我國にても資本利子税、第二種所得税、相續税、登録税、印紙税、取引所取引税、兌換銀行券發行税、狩獵免許税、噸税、酒造税、麥酒税、酒精及酒精含有飲料税、清涼飲料税、砂糖消費税、織物消費税、骨牌税、關税は國のみの收入の爲めに國の當局が賦課し、家屋税、營業税、雜種税(道府縣の其と、市町村の特別税たるものとがある)、戸數割は地方當局が地方のみの爲めに

42) Shultz, l. c. p. 362.

43) 拙著、最近地方税問題、1908. 以下。

課するものである。此種のやり方は學界に於ても支持者を有ち、土地<sup>44)</sup>、家屋<sup>45)</sup>、營業<sup>46)</sup>の税、不動産交通税<sup>47)</sup>、使用税<sup>48)</sup>の如きは、其課税物件が地方的に分別し得られ、且つ地方の發達及施設から特別の利益を受け、又は地方的の行政と特別の關係あるの故に、地方のみの特別の税とするに適當すとせられる。

(ろ) 他團體の當局をして當らしむるもの――

(1) 國の收入に屬すべき國税の賦課を地方當局をして當らしむるもの――此は嘗て配賦税として盛んに行はれたものだが、各地方の間に不公平なる分配を生ずるものとして今日行はれない。

(2) 地方收入に屬すべき地方税が國の賦課に待つもの――我邦の道府縣の特別地税のやうな特殊のものには行はれて良い。佛國の地方税たるサンチームアデションネル<sup>49)</sup>も此種のものである。

(B) 收入を双方の共用とするもの

(い) 國家當局が賦課の局に當るもの

(1) 地方が國税への附加税として收入に参加するもの――其は獨逸の各邦の收益税への地方附加税<sup>50)</sup>、我國に於ける所得税、地租、營業收益税、鑛業税、砂鑛區税、取引所營業税への地方附加税の如し。

(2) 國税として國のみが管理し收入し唯其收入の一定部を地方に分與するもの――此は前記の制度にては地方附加税となるべき分をも一旦は國自ら收納するものである。實に獨逸にては共

44) Bastable, l. c. p. 396.  
45) Bastable, l. c. p. 397.  
46) Bastable, l. c. p. 397.  
47) Bastable, l. c. p. 398.  
48) Bastable, l. c. p. 398.  
49) Lotz, a. a. O. 573.

和國の所得稅及法人稅の七五%、賣上稅の三〇%、不動産交通稅、自動車稅、馬券稅の九六%を各邦及地方團體へ交付して居り、<sup>51)</sup>米國にては法人稅、相續稅、動力車稅、所得稅、森林稅、鑛山稅に此種の國家管理地方分與稅が行はれ、一九三〇年一月一日現在、百四十二の多數例に上つたといふことである。<sup>52)</sup>尙ほ、佛國にても國にはフォン・コンミュンといふ資金があつて、此は國の賣上稅、外國人證明票料、飲料稅の一定部から成りて其を地方に分配することになり、鑛山利得稅の一部、馬及馬車稅の收入も齊しく地方に分配せられる。<sup>53)</sup>

(3) 國が其稅收入の一定部を收入地方にて國自らの手にて直接消費するもの——此の如きものとしては米國のノースカロリーナにて、其動力車稅の收入の七〇%を、收入したる各地方にて其道路の爲めに使用するものを擧ぐることが出来る。<sup>54)</sup>

(ろ) 地方當局が賦課の局に當るもの——其例は、米國カンサス州の貨幣及信用稅が地方吏により賦課せられて、其收入を國と地方とにて分配するが如し。<sup>55)</sup>

(二) 國及地方兩當局共同して局に當るもの——此は現に、我邦の國稅ではないが、道府縣の家屋稅について、道府縣と市町村と兩當局共同して賦課に當つて居るが、之を國と地方との間にも及ぼさうといふのであり、國家當局と地方當局との各の長所を利用し其の調和協力を進める所以である。<sup>56)</sup>此の如きは例之、土地家屋營業の稅について最必要のやうに思ふ。之を其性質に従ひ全く地方稅としてしまふにせよ、之が賦課が全く地方當局だけの手にては甘く往くや疑はしく、矢張り

50) Lotz, a. a. O. S. 574.

51) Bleicher, Kommunale Finanzwirtschaftslehre. (IIdb. d. Fw. II) S. 457. Hutchinson, l. c. p. 115.

52) Shultz, l. c. p. 233, 237. Hutchinson, l. c. p. 36, 45, sq.

53) Allix, Traité élémentaire de science des finances. 6 éd. p. 1031-1032. Hutchinson, l. c. p. 120-121.

國家當局の力をも借りた方が良く、また國家としても、直接に其から利益を受けずとも、間接には其所得税相續税等々の爲めの資料を得るの利益もあり。地方の税務とてもつまりは國家事務の一部とも見るべきものだとも考へらるるので、之に助力するの義務があるのでもある。まして、かくして地方の收めたる税へ、國家が附加税を課し、又は其地方收入の一定部を國に提供せしめることにでもするならば、一層、國家としては此賦課に参加する強き理由をもつことになる譯である。或は夫の税を國税とするの主義を採るとしても、（其際には家屋税をも國に移さなくては税制が整はぬことになる）、其場合の賦課は在來の方法に従ひ國家當局單獨にて之を行ふとするよりも矢張り、地方當局をも其に参加せしめる組織を工夫した方が一層、此賦課を完全に近づける所以と考へる。

## 結 論

以上要之、從來租税賦課當局の機關を何うするかといふことは比較的等閑視されて居たが、實の處、可なり重大な問題であり、特に國家當局と地方當局との間に長短利害の相對立するものがあつて、何れにも偏し難きものを見出す。然るに、近時、米獨佛などにて國家管理が増加しつつあるやうに見ゆる。其に一の眞理あることを疑はぬけれども、併し又其は半面の眞理のみのやうに考へらるる。彼是れ考慮するときに、むしろ國、地方兩當局の結合共力の組織によりて賦課を行はしむるのが一番有效だと考へる。差當り、我國の土地家屋營業の課税について、此種の方法を工夫するのが宜しくはないかと思ふ。

- 54) Hutchinson, l. c. p. 35.
- 55) Hutchinson, l. c. p. 34-35.
- 56) Bela Földes, a. a. O. S. 388.